

[新著紹介] An. A. Fedorov 「Tropical Rain Forest of China, in Botanical Journal (published by the Botanical Society of the U, S. S. R.) Vol. XLIII」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-23 キーワード: 作成者: 古池, 博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065700

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



14) マルバマンネングサの2品, マルバマンネングサは花屋でイワカゲと称し栽培する。葉辺の白色のをフクリンイワカゲと云い, 葉の中部に不規則の白斑あるものをフィリイワカゲと云う。共に園芸品である。尚ほオノマンネングサにもふくりん葉のものは花屋でヒメササと云う。

15) イワレンゲの4品, イワレンゲの真の自生地は静岡市久能山である。崖に着いていて採つて植てあるのを見た。この園芸品で葉辺の白色のを富士, 葉辺の黄色のを金星, 葉の中央に黄帯のあるのを鳳凰と云い, 不規則の白斑あるものをフィリイワレンゲと云う。共に花屋に売つていて筆者は栽培した。株分けで増殖する。

16) ヤエイチリンソウ (新品種)イチリンソウの八重咲である。渡辺定元氏が郷里の駿河国白糸村で採集した。キクザキイチリンソウとは全く別のものである。

17) シロツルフヂバカマ (新品種)ツルフヂバカマの白花品である。駿河国富士山麓の旧印野村地域で村松七郎氏が見出したもの。

18) アケボノオオバクサフヂ (新品種)オオバクサフヂの淡紅白色の花である。古瀬義氏が信濃国下伊那郡富草村で採つたもの。

19) モモイロノハラクサフヂ (新品種)ノハラクサフヂの花の淡紅白色のもの。同じく古瀬氏が信濃国下伊那郡生田村で採つたもの。

○ 新 著 紹 介 (Introduction of New Works)

An. A. Fedorov: **Tropical Rain Forest of China**, in *Botanical Journal* (published by the Botanical Society of the U. S. S. R.) Vol. XLIII, No. 10, p 1385~1408.

1955, '56, '57年にソ同盟科学アカデミヤと中国科学院が共同で行つた海南島及び雲南南部地方への生物学的探険でその全ぼうが明らかになつた支那の熱帯降雨林の概括的な調査報告である。これらの地方はやゝ長めの乾燥期をもつたモンスーン気候が卓越し, 熱帯降雨林は edaphic の条件で成立しているにもかゝらず, P. W. Richard (1957) によつて与えられた概念に非常に近い植生と, formation-type をもつており 主な四つの階層からなりたつている。種類やシヌシアのいくつかは落葉性であるが周期の組合せの結果, 全体として常緑の相観をもつている。 (古池 博)

広江美之助氏の近著 **Umbelliferae of Asia (excluding Japan) no. 1.**

この論文は, 文部省の出版補助助成金により, 出版されたもので, 本文 199 p. 図版4, その他引用文献, 索引などがついている。本文を見ると最初にこの論文で採用した82属の検索があり, 次にそれらの各属の下にその属にはいる種の検索があつて, その次に各種が列記され, それぞれの種の発表された文献, 異名などが記され, またそれぞれの種の特性をあらわす記事があり, 産地分布および, とりあつた標品が羅列されているのは, 従来

日本で出版された多くの分類学系のモノグラフに見られるとうりのものである。私はまだこの論文をよく読んでいないが、セリ科の日本産以外のものを取りあつかっているのは此度の広江氏が発表されたものがはじめてであろう。この論文と、下記の論文はこの点においても特筆すべきものである。また変種などの記述がないのはうれしい。この論文には、東亜産として 264 種が記述されている。なお日本産のものは、同氏の *Umbelliferae of Japan, University of California Publications in Botany, Volume 30. No. 1. pp. 1—144. f. in text 1958* があり、両者共に丸善書店の特に京都支店で販売されておるとのこと。前者は、580 円、後者は、\$ 2.75。良著として本誌の読者に御すすめる。(正宗)

The Journal is issued quarterly.

The Journal is open to all original contribution in the whole field of plant sociology and phytogeography.

Manuscript : contribution may be written in Japanese and any other languages.

All communication should be sent to Prof. G. MASAMUNE, Faculty of Science, University of Kanazawa, Isikawa-Ken, Japan.

Subscription price per volume (one year) \$ 2.00

投 稿 規 定

植物地理学、群落学などに関する論文、抄録、雑報、学会消息等で特に独創的なものを歓迎する。また広く学界を対象としているので北陸と言う地域にこだわらない。

原稿は本誌四頁より長くないこと。たゞし特に長いものを出したい時は、組代を負担されると出すことができます。

日本文は勿論であるが、それ以外のどこの国の言語で書いてもよいが、外国文の場合は日本語、日本文の場合は英、独、仏文のいずれかで要約したものを必ずつけて下さい。

原稿締切日は、12月、3月、6月、9月の各15日とする。たゞし登載の順序及び可否は編纂者が定める。

別刷は50部を進呈しますが、それ以上は実費を著者で負担していただきます。

図版代は原則として投稿者の負担とするが次第によつてその幾分を補助する事があります。

誌代 本誌は一部 100 円で御頒けしますが、4 冊 (1 年分) 代金前送の方は 300 円 (送料とも) です。御送金は振替口座金沢 904 番金沢大学理学部植物学教室に御願いたします。